

看護学教育評価

自己点検・評価報告書

2022年5月23日

岐阜大学医学部看護学科

評価基準 1. 教育理念・教育目標に基づく教育課程の枠組み

当該大学の教育理念・教育目標、ディプロマ・ポリシーと一貫した、看護学学士課程の教育理念・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき当該大学独自の教育課程の枠組みができていていること。

評価項目：1-1. 看護学学士課程の教育理念・教育目標

現状

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」人材を社会に送り出すことを理念としています。また、当大学はすべての学部が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし、特に高度な専門職業人の育成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根差した国際化を展開しています。さらにこれらの成果を地域還元することなどにより、地域社会の活性化の中核拠点を目指しています（資料 38. 岐阜大学ホームページ (<https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/aims.html>)、大学の理念と目標）。

医学部は、医学の基礎と高度な専門知識・技能及び態度を教授することにより、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って、世界と地域の医学・医療の発展に貢献できる優れた医療人及び医療系研究者を育成することを目的としています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p12）。

これを受けて看護学科は、教育理念として近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、多様な社会的要請に応えるため、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する知識や技術を修得・発展させる能力や、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる高い資質を持つ看護職を育成することを掲げています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）。看護学科の教育目標として、1. 人の尊厳と、生命を尊重する姿勢に基づいた高い倫理性を養う、2. 広く世界に関心を持ち多様な文化的背景を持つ人を理解する能力を養う、3. 看護の対象の健康課題に対し質の高い看護が実践できる能力を養う、4. 保健医療福祉チームの一員として多職種の役割を理解し協働・調整する能力を養う、5. 看護専門職として将来的な展望を持ち自己研鑽できる能力を養うと明記しており、ディプロマ・ポリシーに対応しています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）。ディプロマ・ポリシーの 5 項目（資料 39. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/nur.html>)、卒業認定・学位授与の方針）は、項目ごとに具体的な水準が設けられており、厳格な単位、卒業認定を行なっています。

また、岐阜大学では「次世代地域リーダー育成プログラム」のもとすべての学生が地域志向科目群の履修をしています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p17）。このプログラムで学生は地域について学び、地域における体験や地域との交流を深め、地域の課題解決に参画する中で、地域の現状の把握や地域の課題解決に貢献できる知識・理解・意欲・能力など、社会に出てから役立つ実践力を修得できます（資料 17. 全学共通教育科目履修案内 2021、p99）。岐阜県は山間部から都市部まで広大であり、地域により医療事情が大きく異なっているため、看護学科では、岐阜という地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる高い資質を持つ看護職を育成することを掲げ（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）、より高度な目標を達成するために、令和 4 年度のカリキュラム改正に合わせて、教育目標等を再度点検し、必要に応じて変更する予定です。

課題や改善の取り組み状況

令和 4 年度のカリキュラム改正の際に地域生活体験実習 I、II の科目を新設し（資料 40. 地域生活体験実習 I、II の概要）、地域創成に資する看護職の育成強化を行う予定です。

評価項目：1－2. 看護学学士課程のディプロマ・ポリシー等

現状

看護学科のディプロマ・ポリシーは、以下の5つです（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）。

ディプロマ・ポリシー

1. 人の尊厳と、生命を尊重する姿勢に基づいた倫理的配慮ができる能力
2. 人間・環境・健康・看護に興味・関心を持ち、多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴を理解する能力
3. 看護を必要としている個人・家族・地域社会に対して、対象に応じた看護を実践できる能力
4. 変化する保健・医療・福祉システムの中で、チーム医療を担う一員として、他職種の役割を理解し、協働的關係を築き調整する能力
5. 看護専門職として、将来的な展望を持ち、自らを振り返りながら研鑽する態度や、自律的に行動する能力

ディプロマ・ポリシー1は、教育目標「1. 人の尊厳と、生命を尊重する姿勢に基づいた高い倫理性を養う」に対応するものです。ディプロマ・ポリシー2は教育目標「3. 看護の対象の健康課題に対し質の高い看護が実践できる能力を養う」の基礎段階、及び教育目標「2. 広く世界に関心を持ち多様な文化的背景を持つ人を理解する能力を養う」に対応しています。ディプロマ・ポリシー3は、教育目標「3. 看護の対象の健康課題に対し質の高い看護が実践できる能力を養う」に対応します。ディプロマ・ポリシー4は、教育目標「4. 保健医療福祉チームの一員として他職種の役割を理解し協働・調整する能力を養う」に対応します。ディプロマ・ポリシー5は、教育目標「5. 看護専門職として将来的な展望を持ち自己研鑽できる能力を養う」に対応します。以上のように当学科のディプロマ・ポリシーは教育目標と整合性があると言えます。

当学科ホームページには、この5つのディプロマ・ポリシーとそれに対応する「医学部看護学科専門的能力の内容と水準」が具体的な到達内容を示しております（資料 39. 看護学科ホームページ <https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/nur.html>）、医学部看護学科専門的能力の内容と水準）。これは卒業時に獲得できる能力を表すものです。ディプロマ・ポリシーは、入学生に配付する「学生生活と履修の手引き」（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）に掲載し広く学生が認識できるようにしています。

当学科では、当該教育課程を修めることにより付与できる3つの資格があります（資料 42. 看護学科ホームページ <https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/shinro.html>）、就職・進学）。学生に対して取得可能な資格（看護師、助産師、保健師）とそれを得るための履修科目について「学生生活と履修の手引き」（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p22～26）に記述があり、これらの条件に該当する学生を明記しています。

ディプロマ・ポリシー達成度については、ディプロマ・ポリシー達成度調査票（資料 43. ディプロマ・ポリシー達成度調査票）を活用して、学生による自己評価を実施しています。

課題や改善の取り組み状況

課題として、2点あげられます。1点目は、現在実施している1年次と4年次のディプロマ・ポリシー達成評価の対象学年を拡大し、結果を活用するためにGPAとの関連や年次評価等を検証することです。2点目として、現在あるそれらのデータをもとに授業内容、方法の再検討をし、必要に応じて修正することを各教員に周知していく予定です。

評価項目：1－3. 看護学学士課程のカリキュラム・ポリシーと教育課程の枠組み

現状

現在（2021年）看護学科では、学年により異なる2つのカリキュラムが混在しています。4年生は2012年度カリキュラムを活用し、1～3年生は2019年度カリキュラムで進行しています。2019年度カリキュラムは、「看護学モデル・コア・カリキュラム」「看護学学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」を参考に、カリキュラム内容を見直し、カリキュラムの変更を行いました。

このカリキュラムの独自性として、対象理解、ケアニーズの抽出、看護計画の立案といった看護過程を実習またその前段階での学内での授業において、各看護学分野で展開しています。各分野で、専門領域の対象の特徴を踏まえ、それぞれで適した枠組みを用いています（資料44. 2018. 4. 5カリキュラム委員会資料 カリキュラムの独自性）。2019年度カリキュラムは科目群を専門基礎科目と、専門科目という枠組みに変更し、社会システムや、社会の中での健康という視点を持つ科目や、看護倫理を踏襲する科目と、看護としての対象のとらえ方や実践・介入に関する専門科目とのつながりについて、学生の意識が高まることが期待されます。また、発展的な科目として、「エンドオブライフにある人への看護」、「災害看護」等を追加し、状況に応じた看護の特徴について、分野横断型で学びを深めることができるカリキュラムとなっています。さらに、国際保健・国際看護に関する科目を追加し、人々の健康とその支援をより広い視野を持って捉え、また、異なる文化にある人々への理解を深め支援を行える基盤となる力の育成が期待されるカリキュラムとなっています。

現行のカリキュラムは、入学時から卒業後まで一貫性・整合性をもった教育体制をとることにより、看護に関して初学者である学生が段階的にディプロマ・ポリシーの5つの能力を修得していくための教育プログラムとなっており、カリキュラム・ポリシーを次の3つに提示しています（資料45. 看護学科ホームページ（<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>）、カリキュラム・ポリシー）。

カリキュラム・ポリシー

1. 主体的で自律的な姿勢を尊び、人々の生活背景、社会・文化的背景に視点を向け、看護を必要とする人々を生活者として捉えた人間性豊かな、そして根拠のある看護実践を展開する能力が修得できるよう教養教育、専門基礎科目、専門科目の3群からなる教育課程の編成としています。
2. 看護を、「人間の健康に焦点を当て、その人とその人を取り巻く環境に働きかけ、人間が健康に生き、安らかな死を迎え、さらに健全な次世代の育成を援助する実践である」と捉え、看護実践の基盤となる専門基礎科目から看護実践に関する専門科目への積み上げによる配置としています。
3. 授業・演習・実習において、看護専門職として多様な価値観を持ち総合的な判断ができる能力、他職種と協働して活動ができるようコミュニケーション能力、チームのリーダー、コーディネーターの役割が担える能力の向上を意図したアクティブラーニングを取り入れる工夫を行います。また、主体的で自律的に何事にも取り組める姿勢や自己研鑽する態度を養います。

これらのカリキュラム・ポリシーを踏まえ、岐阜大学医学部看護学科における看護師課程のカリキュラムの特徴を3つに大別することができます（資料45. 看護学科ホームページ（<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>）、看護師課程のカリキュラムの特徴）。

看護学科のカリキュラムは下記の特徴があります。

カリキュラムの特徴

1. 教養科目では、さまざまな学問分野のもの見方、考え方の学びを通して、幅広い教養、豊かな感性

と洞察力、生命への尊厳が身に着くとともに看護学の重要な概念である健康と人間理解の基本を学びます。そして、看護の専門職としての資質、自己の認識と人格の統一体としての発達を促します。

2. 専門基礎科目では、看護学を専門的に学ぶ上で基盤となる「異なる文化背景をもつ人とのコミュニケーション」「生物学的に共通する側面の人間理解・疾病と回復過程の理解」「社会システムと健康の理解」「医療者としての使命と役割、責務の理解」を系統的に学ぶことができるよう授業科目を編成しています。尚、「異なる文化背景をもつ人とのコミュニケーション」では、医療英語の一部として、春季あるいは夏季休暇を利用し、短期海外研修に参加することも可能です。
3. 専門科目では、あらゆる健康状態、発達段階にある人を多角的に捉え、根拠ある看護を実践するために必要な知識・技術・態度が各学年を通して積み上げて修得できるよう、看護の基礎から看護の方法、実践、統合へと段階的に系統的に授業科目を編成しています。具体的には、「基礎看護学」「成人看護学」「母性看護学」「小児看護学」「老年看護学」「精神看護学」「地域看護学」の7分野と「看護の統合と実践」であり、講義・演習・実習により学びます。

臨地実習は基礎的な看護実践能力の修得に非常に重要で、施設や生活の場で実際に看護を必要としている人に向き合いながら看護援助を実践することを通して、既習の理論・知識・技術・態度を結びつけ、根拠ある看護実践力を修得してけるカリキュラムとなっております。また、看護職の活動の場は医療施設にとどまらず地域へと拡大しているため、高次医療機関から地域の保健・福祉施設まで幅広い場において実習ができるようにカリキュラムを組んでおります。

そして、「看護の統合と実践」では、臨床での看護実践の能力を高めるとともに将来的にわたり看護を継続的に探求し、広い視野で新たな看護学の視点を模索できるよう科目を編成しています。これまで学修した知識と技術を統合する科目として、その人の生活や生き方と異なる文化背景をもつ人々への理解を深め支援を学ぶ科目、人生や病気の最終段階にある人々への看護の特徴、災害などの状況に応じた看護の特徴を学ぶことができる科目を組み込んでいます。

また、当学科のカリキュラムはカリキュラム・ポリシーに基づいて体系的なカリキュラムマップ(デザイン)となっており、学年進行とともに基礎、専門基礎、専門科目の進行がわかるカリキュラムデザインになっています。さらに、教養科目では、専門基礎科目、専門科目の関連性が学生の学びの進行に沿って分かるデザインとなっています。これらのカリキュラムは、看護の基礎から専門科目、概論から看護方法へ展開し、臨地実習での実践、統合実習へと段階的に授業科目を配置しています。これらの科目に偏りはなく、看護師国家試験対策に該当する科目の配置はありません。(資料 45. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>))、看護学科のカリキュラムデザイン)。

学年の科目配置としては、教養教育(教養科目)と専門教育(専門基礎科目、専門科目)に大別され、学習の順序性もカリキュラム・ツリーに示してあるように段階的になっています。また、看護学科で履修する科目にはすべての科目で、専門基礎科目・専門科目別表として示されています(資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021 p 18、専門科目・専門基礎科目)。

当学科では、2016年から看護学科社会貢献部会を発足させ、その中の一つに大学入学前から看護の基盤となる素養を育てる」ことを目的として高大連携の取り組みを実施し大学で学ぶための心構えを作る工夫を活動記録にまとめ報告しています(資料 46. 2021 年度高大連携評価)。加えて、大学入学後の対応としては初年次教育として、学習への態度・姿勢と基本的な学習の方法の習得並びに今後の学習への動機づけを図ることを目的として、初年次セミナーを開講しています(資料 27. 初年次セミナーシラバス、資料 45. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>))、看護学科のカリキュラムデザイン)。

また、学生の修学上および生活上の問題等の相談に応じるための助言教員制度を設けています（資料 47. 岐阜大学医学部看護学科における教育業務・助言教員の役割）。

課題や改善の取り組み状況

2022 年度より、次世代における保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、豊かな感性と人間性を備え、地域における健康課題に対応する質の高い看護が実践できる能力を身につけ、看護専門職としてリーダーシップを発揮し、グローバルに活躍する人材を育成することを理念としディプロマ・ポリシーを変更しました。2022 年 4 月 1 日から保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則）の改正を踏まえ、カリキュラムの見直しを行いました。特に、今日の新型コロナへの感染対応、活躍ができる看護職の育成、地域住民や地域社会との協働による看護実践、「地域創成」に資する学術、並びに施策を構築する能力を持った看護職を育成するためのカリキュラム改正を行っています。新カリキュラムは 2022 年度から施行されるため、現行カリキュラムの評価と新カリキュラムでの評価を行っていく予定です。

評価項目：1－4. 意思決定組織への参画

現状

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学の組織運営（資料105. 岐阜大学組織運営規程）は、機構長・学長・副学長・学部長・研究科長・医学部附属病院長等からなる教育研究評議会（資料106. 岐阜大学教育研究評議会規程 第3条第1項第11号による医学部の専任教授（看護学科長が指名））、学長・副学長・運営局長・医学部附属病院長からなる運営会議（資料107. 岐阜大学運営会議規程）及び学長・副学長・学部長・研究科長・医学部附属病院長等からなる部局長・部長会（資料108. 岐阜大学部局長・部長会規程）からなり、岐阜大学大学院医学系研究科・医学部の組織についても規程（資料109. 岐阜大学大学院医学系研究科・医学部運営組織規程）で明示されています。また、大学院医学系研究科・医学部の最高意思決定組織である教授会（資料110. 岐阜大学大学院医学系研究科教授会規程、資料111. 岐阜大学医学部教授会規程）の基に、研究科教授会議・学科教授会議等（資料112. 岐阜大学大学院医学系研究科看護学専攻教授会議細則、資料113. 岐阜大学医学部看護学科教授会議細則、資料114. 岐阜大学医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻教員会議細則）を置いていることで、医学系研究科・医学部内における看護学科・看護学専攻の組織は確立されています。教授会等の審議事項及び構成員については規程等で明示されています。また、看護学科の円滑な管理運営を行うため、看護学科長・学科長補佐・将来計画委員会委員長・教務厚生委員会委員長・学務委員会委員長等からなる運営委員会（資料115. 岐阜大学医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻運営委員会細則）を置いています。

大学院医学系研究科・医学部を総括する医学系研究科長の選考については、医学系研究科、医学教育開発研究センター及び医学部附属地域医療医学センターの専任の教授、准教授、講師及び助教のうちから、医学系研究科、医学教育開発研究センター及び医学部附属地域医療医学センター、医学部及び医学部附属病院の専任の教授、准教授、講師、助教、助手及び事務部（係長以上）の者の意向聴取投票により、医学系研究科教授会において候補者を決定して学長に推薦（資料116. 岐阜大学大学院医学系研究科長候補者の推薦に関する規程）し、選考（資料105. 岐阜大学組織運営規程 第11条第3項）することが定められています。

看護学教育の責任者である看護学科長は、大学院医学系研究科・医学部の管理運営に関する事項を審議する企画委員会（資料117. 岐阜大学大学院医学系研究科・医学部企画委員会細則）の構成員として審議に参加し、意見を反映できるようになっており、決定権を有しています。

看護学教育の責任者である看護学科長の選考については、看護学科の専任の教授のうちから、看護学科の専任の教授、准教授、助教及び助手による選挙により、医学部看護学科教員会議において候補者を決定（資料118. 岐阜大学医学部看護学科長候補者選考内規）し、医学系研究科長の推薦に基づき、学長が選考します。

課題や改善の取り組み状況

大学院医学系研究科・医学部の最高意思決定組織である教授会の基に、前述のように教授会議を置いて意思決定を行っていることから、看護学科組織としての意思決定は確立されています。しかし、今後の最高意思決定組織である教授会への参画については、定年退職する教授の補充が、昨今の看護系学部等の設置増に伴い人材の確保が困難となっており、構成員として参画が順調に引き継いでいけるように、大学の方針でもある若手教員による補充で人員を確保しつつ、学科内における人材育成が急務です。

評価基準 2. 教育課程における教育・学習活動

教育課程の枠組みに沿った教科目が配置され、その内容、担当する教員、教育方法が適切であり、学生が自ら学習できる環境が整っていること。

評価項目：2-1. 教育内容と目標・評価方法

現状

岐阜大学医学部看護学科では、5つのディプロマ・ポリシーを示しこの達成のために3つのカリキュラム・ポリシーを掲げています。これらを基盤に教育課程を編成し教育内容・方法を実施するのを定めています。ディプロマ・ポリシーは、学生生活と履修の手引き 2021 年度版 P3、ホームページ「岐阜大学大学院医学系研究科・医学部」のトップページの概要に3つのポリシーとして掲載されています。(資料 39. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/nur.html>))、3つのポリシー)。

カリキュラム・ポリシーは、看護学科ホームページ (資料 45. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>))、教育課程) に掲載しています。さらに、岐阜大学は「学び、究め、貢献する」、地域に根ざした国立大学を目指して、「学生の主体的な学びを推進し、教育の質保証システムを充実させ、高度な専門職業人の養成と地域単位での Teach for Communities を実現する」ことを教育の目標としています。この実現のため、「岐阜大学が目指す3つの基盤的能力（進める力、伝える力、考える力）を高めるため、主体的な学びを推進する」ことを掲げています (資料 49. CAMPUS GUIDE 2021 p2~3)。しかし基盤的能力を培うための特別な授業科目の設定をしていません。教員が授業にこれら基盤的能力の要素を育み、伸ばすための授業展開を考えています。このカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシー、基盤的能力の概念を考慮して、看護学科カリキュラムデザイン (資料 45. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>))、カリキュラムデザイン) を構築しています。それに基づいて、各科目担当者が、教育内容および、教育方法に基づき、教育を実施しています。また、時代の要請と最新の知見を踏まえた教育内容であるかについては、文部科学省の答申、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改訂、各科目担当者が取り組む研究から得た知見を踏まえて教育内容のみなおし、変更を行っています。当学科では、2019 年度カリキュラム改正で、学士課程教育は看護実践の基盤となる専門知識・技術の習得に加え、現象を科学的かつ論理的にとらえる能力や主体的に看護援助を展開するための能力を養い、また今日の医療状況から、地域社会ないし国際社会における問題まで広く関心を持ち、様々な人々への理解を深め、人々と協働できる人材を育成することを目的に見直しを行い現在実施しているところです。具体的には、生命倫理 1 単位 15 時間を 2 単位 30 時間、在宅看護方法論 1 単位 15 時間を 2 単位 30 時間にし、現代の社会システムや社会、地域の中での健康の捉え方、対象の権利擁護等倫理的問題に気づき倫理的な判断ができる能力を高める内容としたところです。また、対象をアセスメントするために必要な情報収集のための観察力、知識、情報収集の手法や技術力を高め、複雑な健康問題を持つ人のニーズを理解し、根拠ある看護を展開するための能力を習得するために、看護アセスメント演習を看護過程演習、「フィジカルアセスメント演習」1 単位 15 時間を 2 単位 30 時間としました。さらに、発展的な科目として、終末期看護に関して「エンドオブライフにある人への看護」を必修科目として新設し、災害看護と合わせて分野横断型で授業展開することとしました。国際看護・国際保健については「世界の人々と看護」を新設し、より広い視野で、異なる文化を持つ人々を理解し支援を行える能力の育成を目指しています。

そして、2022 年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則改訂後看護基礎教育検討会報告書（令和元年 10 月 15 日）をもとに、本学では今回の改正の基本的考え方である、対象集団の顕在・潜在している問題を把握する能力の強化、地域包括ケアシステム等の構築に向けて施策化する能力の強化、大規模災害や感染症等

の健康危機管理能力の強化の必要性等を踏まえて、科目の新設、内容の変更等を行い、カリキュラムを申請しました。「基礎看護学」に、事例展開、シミュレーターや ICT を活用した授業方法を取り入れ臨床判断能力、理論的判断・行動に必要な能力を養うことを目的に「臨床看護学総論」1 単位 15 時間を追加しました。感染と看護を選択から必修科目とし、さらに医療従事者として正しい感染の知識と技術を習得するために 1 年生前学期に「感染と看護Ⅰ」を、3 年生後学期には応用より実践的な知識と技術を習得する「感染と看護Ⅱ」を開講します。実習では、入院期間の短縮化や、医療機器の発達等による在宅医療・外来医療の進展、地域包括ケアシステム構築の推進等の中、療養する人々の生活の場は自宅や介護施設、学校を含む教育機関など多様化し、疾病や健康の概念が変化する中で、対象を生活者として捉え、地域で生活する人々を理解することを目的に 1 年生で「地域生活体験実習Ⅰ」、2 年生「地域体験実習Ⅱ」をそれぞれ通年で行う実習を新設しました。カリキュラムは、常に見直しを行い、社会の求める時代に即した教育を実施できるよう努めています。

各科目の到達レベルおよび各科目の到達度を測る評価方法（評価の観点）は、シラバス作成要領に基づき、各科目の成績評価の方法、到達度評価の観点について明示しています。また、臨地実習については臨地実習要項に各科目の実習評価表および、到達度を明示し、評価方法について明示しています（資料 27. シラバス、資料 29. 実習要項の各科目）。

課題や改善の取り組み状況

課題として到達レベルおよび各科目の到達度を測る評価者について、シラバスや要項等に評価者の記載がなく実習前オリエンテーション資料等他の方法でも伝えていない科目が多いことが挙げられます。また、実習要項は前年度に作成するため、実習時に担当教員が変更になる場合もあるため、実習要項には「担当者が評価する」と記載して学生には評価者を周知することとしました。具体的な評価者氏名は、口頭で学生に伝えるなど教員に依頼しました。

成績評定基準は岐阜大学で規定されている秀・優・良・可・不可で評価しており、「学生生活と履修の手引き」に明記され、学生と共通理解しています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、P21）。シラバスの「成績評価」、「到達度評価」に評価の内容は明記していますが、記載のない科目もあったため、2021 年度シラバスには、「成績評価」「到達度評価」「成績基準」を追加しています。

学生の成績は学内情報システムや対面で、すべての科目についてフィードバックをしています（資料 50. AIMS を用いた講義でのフィードバック）。フィードバック方法について学生へ定期試験時に監督者が実施要綱に沿って説明しています。実習科目に関しては、最終日に学生と面談のもと、評価のフィードバックをしています。

学生の評価への疑問・不服等を把握できる体制について、「学生生活と履修の手引き（P21）」に記載され、学生に周知しています。「自分の成績に対し、異議を申し立てること、自分の成績に納得できない場合には照会することができます。決められた期間内に申請する必要があります。」と説明されています。

評価項目：2－2．教員組織と教員の能力の確保

現状

教員組織は教育課程を展開するために適切な専門領域別・職位別構成となっており、2021年7月1日時点で計30名の教員が配置されています(資料51. 医学部看護学科教育職員等配置表)。さらに、各専門領域に専門科目を教授できる教授または、准教授を配置しています。さらに、この教員総数は、JUNPU(2021)が示した1学年71～80人の学生定員グループ毎の教員数の中央値29名と概ね一致しています(資料37. 基礎データ1)。また、本学の示す教育・研究・社会貢献を行うのに必要な教員が各講座に一定数確保されています(資料51. 医学部看護学科教育職員等配置表、資料37. 基礎データ2)。実習指導に関しても、専任教員が担当できる状況にあります。さらに、教員の採用に関しては、高度な研究と教育を実践するための優秀な人材を確保、その人材の育成を目的とし、本学教員選考基準(資料52. 東海国立大学機構大学教員選考基準)及び看護学科教員選考取扱規程(資料53. 岐阜大学医学部看護学科大学教員選考取扱規程)に、採用・昇任の可否の決定をする旨が示されており、公平で、公正な採用・昇任に努めています。

加えて、就職した新任職員の育成に関しては、東海国立大学機構岐阜大学新規採用職員研修を実施しています(資料54. 令和3年度東海国立大学機構岐阜大学新規採用職員研修実施要項)。加えて、看護学科が行う研修内容(資料47. 岐阜大学医学部看護学科における教育業務・助言教員の役割)に基づき、新任教員は、学科内で説明を受けています。また、教員のサポートに関しては、各領域分野・講座長のサポート、さらに、岐阜大学の保健管理センターや男女共同参画機構などから様々なサポートを受けることができます。

教員の看護実践活動を支援する仕組みはなく、規程も見当たりませんが、要請があれば、協力体制を整え、実施しています。例えば、近隣の市町村自治体との協働で、地域住民の健康教育の支援を行っていることです(資料55. 2020年度社会貢献部会報告書)。また、2021年度は、県内の教育機関に就学する大学生や教員を対象とし、新型コロナワクチンの職域接種(第1, 2回目)を附属病院と協働で実施しました。

教員の研究能力の向上と研究の支援のための組織的に取り組みに関して、研究を進める上で必要な支援は、本学の学術研究・産学官連携推進本部のホームページ(資料56. 東海国立大学機構岐阜大学産官学連携推進部門支援・サービス(<https://www.sangaku.gifu-u.ac.jp/>))にて紹介されています。科学研究費助成事業説明会は年に1回開催され、若手研究者を対象に科学研究費研究計画調書作成支援が実施されています。また岐阜大学大学院医学系研究科主催の医学研究等倫理講習会、岐阜大学医学部附属病院先端医療・臨床研究推進センター主催の治験・臨床研究講習会が毎年定期的に開催されます。さらに岐阜大学医学部看護学科では、FD委員会主催の研究に関する研修会を過去5年間に2回開催し、2021年度においても「医療系研究のための具体的統計手法」をテーマに研修会を企画中です(資料37. 基礎データ11)。これらの説明会、講習会、研修会における本学科教員の参加人数および科研費採択人数については、基礎データ7に示す通りです(資料37. 基礎データ7)。看護学科教員が受けたプロジェクト・ディレクター(PD)制度は、2020年より中止となり、2021年からは新たに科研費研究計画書作成支援を実施しています。各教員には支援制度の積極的な活用を十分周知し、科研費等採択率を上げるよう引き続き努力をしております。加えて、東海国立大学機構岐阜大学の方針として、次年度の科学研究費を取得していない教員については、当該年度の科学研究費助成事業に応募することが義務づけられています。この応募は、応募状況調査票の提出により岐阜大学として把握しています。

また、本学の雇用形態は、大半が、裁量労働制となっており、個人の管理の下で、教育活動、研究活動などを行っています。各教員には、それらの割合の設定や、個人の重点目標を毎年、年度初めに決定し、年度末にそれらを評価することが求められており、継続的に研究に取り組むシステムが存在しています。さらに、

研究の結果を教育に活かすことを推し進めるために、本学科では、教員の研究結果をシラバスおよび卒業研究案内に掲載するよう取り組んでおります。

社会貢献に関しては、2016年度から岐阜大学の特徴を生かした「社会貢献部会」を発足させ、地域の活性化、岐阜県を中心とする地域への看護職の定着、看護の質の向上に向けて、教員有志を中心とした「看護職輝き輝き(イキイキ)プロジェクト」を立ち上げ「高大連携プログラム」「卒業生支援プログラム」「専門職を磨く教育プログラム」「看護研究支援プログラム」「地域住民健康教育プログラム」の5つのプログラムを展開してきました。部会に属する本学科教員は5つのプログラムのうち、いずれかに所属し毎年活動目標および計画を立案・共有を図りながら、地域住民のニーズに応じて看護職として高い専門性をもち、看護の質の向上に貢献できる人材の育成を目指しています。その成果については、(資料 55. 2020年度社会貢献部会報告書)に示す通りです。

課題や改善の取り組み状況

前述したように、社会貢献部会を通して、社会への貢献を行っています。また、その活動内容を社会貢献部会報告書にまとめています。しかし、そうした取り組みが学生、保護者、地域の人に伝わっているとは言い難い状況にあります。今後は社会貢献部会を組織として支援する仕組みが可視化できるよう、規程の必要性や作成の検討が必要です。また、看護研究支援の実績に関しては、岐阜県看護協会や岐阜大学医学部附属病院等からの依頼があり、教員個人が対応している場合もあるため、これについても把握可能な体制作りが必要です。さらに、教員の研究結果を教育に活かすことを目的とし、シラバスおよび卒業研究案内に掲載していますが、学生がどのように、それらから研究への興味・関心を得ているか、その成果に関する基礎的資料は見当たりません。それらについても、今後調査をしていくことが必要です。

評価項目：2－3. 教育方法：学生が主体的に学ぶための種々の工夫

現状

学生による継続的な到達状況の自己評価のための方法として、2020年度学生のディプロマ・ポリシーの段階別到達度評価を開始しています（資料 43. ディプロマ・ポリシー達成度調査票）。この段階別到達度評価は、1年次、4年次に実施しています。

学習到達度の評価に関しては、学生が主体的かつ継続的に学習できるよう、課題レポート、確認テスト、自己学習をして取り組む反転学習などを実施しています。技術の習得に関しては、ルーブリック評価を用いたパフォーマンス評価を実施しています（資料 27. シラバス ([https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbsbdr.do?value\(risyunen\)=2021&value\(semekikn\)=1&value\(kougicd\)=2NSK01021&value\(crclumcd\)=7-2019-910](https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbsbdr.do?value(risyunen)=2021&value(semekikn)=1&value(kougicd)=2NSK01021&value(crclumcd)=7-2019-910))、基礎看護技術 I、到達度評価の観点）。

学生の学習環境については、1学年が収容できる講義用の大教室として看護学科内の講義室 4 室の他、少人数用の講義室 1 室、大学本部管理の講堂や教室の使用が可能であり、いずれも各種プロジェクター等の AV 設備が完備されています。実習室では基礎看護実習室、成人看護実習室、母性・小児看護実習室、老年・在宅実習室、地域看護実習室、精神看護実習室があり、特に基礎看護実習室等では AV システムを用いた技術演習が可能な設備が備わっています。また、生命科学に関する実験用の教室やグループワークに利用できる実験室が複数あり、看護学教育に相応の教室と設備が準備されています（資料 58. 教室の設備等について、資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p5～7）。

学生のグループ学習や自己学習用の教室としては看護学科内にセミナー室 13 室を備えており、授業や自己学習に活用することができます（資料 58. 教室の設備等について、資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p5～7）。また、看護学科校舎外においても、岐阜大学図書館 1 階のアカデミック・コアが自習用スペースとして使用可能です（資料 59. 岐阜大学教育推進・学生支援機構ホームページ (https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/learning_supporting/ALS_academic_commons/academic_commons.html)、学修支援部門、主体的な学びの場）。

実習用モデル及び模型等に関しては、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に示されたモデル等を各領域の教育内容をふまえて備えています（資料 60. 実習用モデル等について）。学生用 PC については、医学部医学科情報処理演習室 127 台、医学図書館閲覧コーナー 12 台、岐阜大学図書館閲覧コーナー 35 台等が使用可能であり（資料 61. 岐阜大学情報館ホームページ (<https://www.imc.gifu-u.ac.jp/service/systemofInformationeducation/about.html>)、情報処理教育システム）、また、看護学科内の講義室等のオープンスペースには「Open LAN」が整備されていて、ノートパソコンや携帯端末等から無線 LAN 環境を利用することができます。各セミナー室には大学内キャンパスネットワークに接続され 1～2 台の PC が設置されており、学生各自がアクセスし学習することが可能です。さらに、各セミナー室には 1～2 台の学生用のプリンターが 1～2 台設置され、レポート作成等に活用することができます（資料 58. 教室の設備等について）。

e-learning に関しては、岐阜大学の学習支援システム（AIMS-Gifu、学務情報システム、Web シラバス）により、授業資料の閲覧・ダウンロードの他、課題提出やディスカッション、成績管理、シラバスの閲覧等が可能で、自己学習等に活用しています。さらに岐阜大学の全学生に Office365 クラウドサービスの機能を提供されており、一部の授業で Teams を使用した遠隔授業も円滑に行われています（資料 62. 岐阜大学教育推進・学生支援機構ホームページ (<https://www.orphess.gifu->

u.ac.jp/learning_supporting/ALS_activities_teachers/teacher_aims.html)、学習支援部門、メディアを活用した教育の活性化)。

看護学科の機器・備品については、所有する分野ごとの管理であり、整備・更新については法定定期点検の時期、教育等による使用の前後などのタイミングが多く、おおむね年1回程度実施されており(資料58. 教室の設備等について)、これまで教育上の問題は生じていません。

看護実習室の運用に関する方針は実習室ごとに規定されており、教員や学生に周知されています(資料14. 看護実習室別運用規程)。運用規程については、講座や分野会議で教員間に周知され、学生には入学時のオリエンテーションや「学生生活と履修の手引き」の施設使用についての項目を確認することで周知しています(資料20. 学生生活と履修の手引き 2021、p33)。看護実習室での医療安全管理対策は、針や薬物などの危険物は安全に使用できるルールを教員や学生に徹底し、安全に管理するために保管庫に施錠して管理しています(資料14. 看護実習室別運用規程、p5～6、11)。安全管理対策に変更があればその都度、分野や講座会議で教員に周知しています。看護実習室での自主学習を支援する体制は、すべての看護実習室で学生に開放して自由に使用できる時間を設けています。学生が自主学習や練習で使用できる日時や取り決めは各実習室を管理している分野ごとで決定し、主に実習室担当教員が窓口となり実習室の管理を行っています(資料14. 看護実習室別運用規程、p2～3、12～22、27)。最も使用頻度が高い基礎看護実習室1・基礎看護実験室1では、講義や演習等で使用していなければ終日開放して教員の指導を受けることができるようになっています(資料14. 看護実習室別運用規程、p2)。

大学図書館および医学図書館にはおおよそ59万冊の蔵書がそろっています。その内医学関連の蔵書は約72,500冊あります。大学に図書館から研究室に貸し出し、研究室配架保管としている図書もあります。これらを含めると、学習に必要な医療保健看護関連の図書は169,113冊(内外国書86,463冊)、学術雑誌3,329種(内、外国書1,805種)、電子ジャーナル7,229件(内、外国書5,768件)が揃っています(資料18. 岐阜大学概要 2021、p9、資料63. 岐阜大学図書館(本館・医学図書館)分野別図書冊数、資料37. 基礎データ9)。電子ジャーナルはScience Direct, Springer-Link, Wiley, Nature, Science, メディカルオンライン等、パッケージ契約および単発で購入しています。電子ジャーナルは、国立情報学研究所の「学認」経由で学外からも利用することが可能です。看護学科内の学生が自己学習するセミナー室1～8にも使用率の高い蔵書を約3,500冊、各セミナー室に420冊～460冊を揃えており、学生は終日閲覧が可能となっています(資料64. 看護学科棟セミナー室蔵書一覧)。図書館にある図書や雑誌を検索するシステムは「岐阜大学図書館蔵書検索(OPAC)」が整備され、医学中央雑誌や最新看護索引Webなど13種類のオンライン文献検索ができるシステムがあります。ILL(図書館間相互協力・Inter Library Loan)を活用し、岐阜大学で所蔵していない資料を他の図書館から複写・貸借ができる図書館サービスもあります。検索方法は、文書での配布(資料20. 学生生活と履修の手引き 2021、p33、資料49. CAMPUS GUIDE「図書館, 情報館, アカデミックコア」p58～61、資料65. 岐阜大学図書館・医学図書館利用案内 2021)や、岐阜大学図書館ホームページにて、学生に周知しています(資料48. 岐阜大学図書館ホームページ(<https://www.lib.gifu-u.ac.jp/>))。図書館の利用方法や検索方法は、入学時に全学生に講習しています。更に、年に数回は、岐阜大学図書館ホームページで講習会を案内、実施しています(資料57・66. 岐阜大学図書館ホームページ(<https://www.lib.gifu-u.ac.jp/>))、利用案内、イベント情報)。大学本館図書館9名、医学図書館1名の司書(2020年度実績)が常駐しており、学生の自主学習を支援しています。

課題や改善の取り組み状況

学生のディプロマ・ポリシーの段階別到達度評価に関しては、3年次にも、実施するように現在検討中です。

さらに、学生の主体的な学びのための工夫のうち、学生自身の継続的な自己評価の取り組みは、開始からまだ間もなく、評価方法等検討を要する部分もあるため、学生のニーズを踏まえながら引き続き検討し、よりよい方法を開発していく予定です。教室や IT 関連の設備やシステム、物品等については、十分整っている半面、分野所有の機器・備品類については、年数の経過とともに一部所在が不明なものもみられることから、現有物品の見直しと学科としての管理体制の構築が課題と考えます。看護実習室の運用に関する方針は実習室ごとに規定されていますが、詳細の取り決めなどが明文化されていない実習室もあり、学生にわかりやすく周知ができるようにすべての看護実習室で作成しています。

評価項目：2－4．臨地実習

現状

看護学科の臨地実習科目では、学内の講義や演習で学んだ知識や技術を臨地実習での実践を通して統合します。具体的には、学生は講義科目である教養科目や専門基礎科目で看護学を学ぶ上で基盤となる知識を深め、専門科目では根拠ある看護を実践するために必要な知識、技術を段階的に修得します（資料 45. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>)、看護師課程カリキュラムの特徴）。

1 年次早期から「初期体験実習」を実施し、後学期に「基礎看護技術Ⅰ」、2 年次前学期に「基礎看護技術Ⅱ」を学習し、2 年次後学期の基礎看護学実習へと段階的に進めています。各領域ではすべての科目において、理論、実践するための方法、演習、実習が連動し、段階的に学習ができるようになっています。

また、臨地実習はこれらの講義科目の学習進度による各学年の学生のレディネスに応じて、専門性を深めた援助の実際を学習できるように保健師・助産師課程の実習を含む 14 の実習科目から構成されています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p2～3）。この講義科目から臨地実習への段階的な学習の過程、連動性をカリキュラムデザインに明確に示しています（資料 45. 看護学科ホームページ (<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>)、カリキュラムデザイン）。また、看護学科の臨地実習は、さまざまな健康レベルの人々へ質の高い看護を提供できる基礎的能力を養い、優れた看護専門職を育成するため、高度急性期医療を提供する岐阜大学医学部附属病院を始めとして、在宅、地域と密着した医療施設や保健・福祉施設などでの保健・医療・福祉の統合を図った実習ができるように計画しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p2～3）。2021 年度の実績では、計 50 施設から臨地実習施設として実習生の受け入れが承諾されており、臨地実習を展開するために十分な実習施設が確保されています（資料 122. 2021 年度 臨地実習施設一覧、資料 123. 実習施設承諾書）。

臨地実習の展開において、看護学科に所属する全看護系教員（計 26 名）が各領域における実習科目の教育を担当しております。2021 年度時点で教員数が不足している分野および実習科目がありますが、助手および短期雇用実習指導教員の動員に加え、分野を越えての組織的な協力体制を整え、適切な教員数を配置することができています（資料 51. 医学部看護学科教育職員配置表、資料 67. 教員不在に伴う支援（臨地実習・演習・講義）に関する申し合わせ）。また、実習施設および実習する学生には、臨地実習要項に各実習科目の実習目的および目標、実習の展開方法と評価方法を明確に示しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p6～53、各実習科目別ガイダンス資料）。しかし、担当教員の記述はないため、2022 年度臨地実習要項に追記していく予定です。

教員の実習指導能力の向上を図る仕組みとしては、看護学科が取り組んでいる FD 研修において、教員が実習指導に活かせる内容を積極的に企画しています（資料 68. 医学部看護学科で開催した FD 研修会一覧）。また、実習指導能力を向上するための個別研修として、岐阜大学医学部附属病院と連携し、適宜、大学病院教員研修を実施しています（資料 69. 大学病院教員研修計画書）。

岐阜大学医学系研究科および岐阜大学医学部（附属病院および医学教育開発研究センターを含む）では、臨床・研究・教育において優秀な人材を確保・活性化を図るため、博士の学位を有し、専門分野の優れた業績あるいは臨床能力・実績を有する者に対し、臨床教授および臨床准教授の称号が付与されます（資料 11. 岐阜大学大学院医学系研究科臨床教授等の称号の付与に関する選考細則）。しかし、現在までに岐阜大学医学部附属病院看護部において、任用基準に該当する看護職員は存在しないため、臨床教員としての臨床教授の称号が付与された実績はありません。本学附属病院看護部と、臨床教授について協議した結果、臨床教授の

該当がなく存在しないことによる指導上の問題は生じていません。他の実習施設においても臨床教員に関する規程や要望はなく、同様の問題は生じておりません。

主に実習を行っている岐阜大学医学部附属病院には各病棟 4～8 名の教育担当としての実地指導者が配置されており、臨地実習においては、各実習施設および実習病棟の指導者や管理者と実習指導における役割を調整し、協働しながら実習指導を行っています（資料 70. カリキュラム申請で使用した大学病院の教育担当者名簿）。

臨地実習施設との連携は、大学と実習施設により臨地実習協議会を組織し、年 1 回定例の協議会を開催しています。定例協議会は、学科長、各看護学分野の責任者、実習施設の責任者が参加し、実習計画や教育方法に関する協議を行っています（資料 71. 岐阜大学医学部看護学科臨地実習協議会要領）。なお、2019 年度および 2020 年度はコロナ禍の影響で開催が見送られました。

また、各看護学分野の臨地実習開始前と終了後には、実習施設の指導者と各看護学分野の教員により臨地実習指導者会議を行っており（資料 124. 2020 年度 臨地実習指導者会議次第）、実習前は、実習目標や内容、レディネス、学生配置、受け持ち患者の選定、教員と指導者の役割の調整および連携方法の指導体制について、確認を行っています（資料 6. 教員役割規定（実習の手引き 教員・臨地実習指導者用））。実習後の会議では、学生の目標到達状況を意見交換し、次年度の改善に役立てています。以上のように、各実習施設の指導者および責任者との意見交換の場を設けることで、実習内容に関する情報共有および施設側からのフィードバックを受け、教員の実習指導能力の向上にも活かしています。

感染症対策は、学内での講義や演習を通して、院内での感染症防止対策や予防策の技術を周知徹底し、また、実習前オリエンテーションの際には、臨地実習要項に記載された、実習における医療関連感染症対策を周知しています。特に医療従事者としての感染対策として、B 型肝炎、MMRV（風疹、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎）、インフルエンザなどのワクチン接種を入学時から計画的に実施し、自身の抗体価および接種記録を自己管理できるよう指導しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p63～78）。

学生自身の体調管理は、実習開始 2 週間前から、健康状態および行動履歴の記録を課し（資料 72. 健康および行動履歴チェックシート）、発熱等症状があった場合の対応は、臨地実習要項にフローチャートで示し遵守しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p78）。学生に感染症が発症した際（結核および COVID-19 患者への接触の場合も含む）には、岐阜大学医学部附属病院・生体支援センターに連絡し、必要に応じて助言を得ています。なお、2020 年は看護学科から生体支援センターへの報告件数は 14 件あり、指定の連絡ファイルに記録・管理しています（資料 73. 感染症発症連絡ファイル）。

臨地実習時の傷害・損害への予防対策および個人情報の保護・保全対策については、臨地実習要項に、「実習事故発生時対処マニュアル」「個人情報保護に関連した実習記録等の取扱い」を記載し、実習前オリエンテーションの際に学生へ周知しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p79～81、p83）。

万一、事故が発生した場合には、個人情報に配慮しつつ事故報告書に状況を整理・記述し、予防・対策を検討し再発防止に努めています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p82）。なお、学生は全員、入学時に傷害・損害を保障する保険（日本看護学校協議会共済会の総合補償制度「Wi11」）へ加入し、加入状況を学務係で管理しています（資料 74. 総合補償制度「Wi11」加入状況）。

個人情報保護に関しては、教員へは、入職時に「資料 47. 岐阜大学医学部看護学科における教育業務・助言教員の役割」を用いてオリエンテーションをしています。学生に対しては、「個人情報保護に関連した実習記録等の取扱い」を記載し、実習前のオリエンテーションで基本的な記録物の取り扱いや患者情報を SNS 等
に書き込まないことなどを指導しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p83）。

臨地実習におけるハラスメント対策を講じています。学生ハラスメントに該当する事象が生じた場合、学

生が教員または実習指導者等に報告・相談する体制があることを、実習前オリエンテーションの際に学生に周知しています（資料 29. 2021 年度 臨地実習要項 p80）。

課題や改善の取り組み状況

2022 年度からの新カリキュラムのなかで、地域住民や地域社会との協働による看護実践「地域創成」に資する目的で、地域での人々の暮らしを理解し、対象者を生活者として捉える視点を養う「地域生活体験実習Ⅰ・Ⅱ」を組み込んでいます。この地域生活体験実習は、1 年次 2 年次と学年を超えた学生同士がバディとして協働し、持ち実習を行うことで対象者の理解、学生間の主体性や協調性を養うことが期待できます。その一方で、新カリキュラムにおける臨地実習の教員配置人数において、一部教員が不足している科目が存在しますが、現在教員確保に向けて採用計画が立案されており、教員数は充足される見込みです。また、臨床教員制度においては、今後岐阜大学医学部附属病院看護部のニーズを鑑みた上で、必要に応じて看護学科および各実習施設での、臨床教員制度の規程を検討する方向性です。

感染対策としては、継続的に取り組んでいく必要があります。また、実習におけるハラスメントへの取り組みは、今後より充実させるため、事案や対応について情報を集約・管理し、ハラスメント予防や発生時の対応に関する方法を検討する方針です。

評価項目：2－5．教育課程展開に必要な経費

現状

予算編成については、全学の予算配分方針に基づき、看護学科の予算が決定されます。広報・情報、実習関係、学生・教務厚生関係等の各種委員会で予算審議がされ報告を受けた経費を反映させた予算案を作成し、看護学科運営委員会（資料115. 岐阜大学医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻運営委員会細則）にて審議後、教員会議（資料114. 岐阜大学医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻教員会議細則）の審議を経て執行されます。

設置主体の予算決定に当該教育課程の責任者が適正に関与しているかについては予算審議する看護学科運営委員会（資料115. 岐阜大学医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻運営委員会細則）には学科長、学科長補佐、将来計画委員会委員長、教務厚生委員会委員長、学務委員会委員長で構成されています。また、最終決定となる教授会議（資料113. 岐阜大学医学部看護学科教授会議細則）は、学科・専攻の専任教員で組織されており予算決定に対し関与しています。

予算執行については、学生の教学に必要な経費は専攻に教育設備充実費として学生数に応じて配分されるが、この予算だけでは不足なことから、教員に配分された研究費から教材の消耗品・備品にかかる経費を拠出しています。高額な備品や、施設設備で教育上必要な経費については、学科長裁量経費などから購入することもあります。

教員は教育・研究に必要な予算の執行については、全学の予算配分方針に基づき、看護学科に配分された予算から教育・研究費を、各分野に予算配分を実施しており、各教員は予算の教育・研究に必要な経費の執行が可能です。

研究費については、大学予算編成方針により削減傾向であり、各分野の研究資金は十分とは言えない状況です。研究資金については、科学研究費の獲得や外部資金を獲得することを行っています。全学体制として研究資金情報の提供、申請書作成支援、科研費支援等の体制をとっており、外部資金支援体制を整えています（資料119. 岐阜大学学術研究・産学官連携推進本部ホームページ (<https://www.orchid.gifu-u.ac.jp/kenkyu/menu/index.html>) 研究推進のページ、研究支援メニュー紹介のページ）。

なお、岐阜大学では研究に係る不正防止への取り組みとして、研究費等の適正使用に関する行動規範（資料120. 東海国立大学機構における研究費等の適正使用に関する行動規範）を宣言、研究費等不正使用防止計画（資料121. 東海国立大学機構研究費等不正使用防止計画）を作成するなどの取り組みを行っています。

教員の教育能力開発のために使用できる経費の予算化については、FDの開催にかかる必要経費を予算化しています。

課題や改善の取り組み状況

大学全体の予算編成方針により、研究費を含む大学の予算は全体的に削減傾向にあり、看護学科のみならず全学的に潤沢に研究費等を使用できる状況ではありません。研究資金等については、上記でも述べた通り、科学研究費や外部資金を獲得できるよう全学的にそのための支援体制を整えて取り組みを行っています。

評価基準 3. 教育課程の評価と改革

各教科目及び教育課程を組織的に評価し、評価結果に基づき継続的に改善・改革する体制を整備し、実行していること。

評価項目：3-1. 科目評価・教育課程評価と改善

現状

当学科では、2019年度カリキュラム改正にあたり、2017年「看護学モデル・コア・カリキュラム」、2018年「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」を一覧表とし、カリキュラム委員会委員を中心として全ての科目の教育内容を点検評価しました。カリキュラム委員会は各専門分野を代表して委員となっており、全教員で見直しをする体制となっています。カリキュラム委員会規則には教育課程の評価は定期的に位置づけられていませんが、随時、社会情勢の変化を踏まえた文科省や厚労省からの報告書等に基づいて見直しを行ってきました。

教育目標やディプロマ・ポリシーの達成を目指して計画された教育課程の実際の展開状況の確認と評価にあたり所定の様式（資料 79. 各科目のディプロマ・ポリシーの対応：令和 2 年度の評価の集計結果一覧）を用いて、年度ごとに各科目での実際の教育内容・方法と該当するディプロマ・ポリシーとの対応状況について科目担当者が確認し、カリキュラム委員会にて集約し課題等を検討する体制をとっています（資料 79. 各科目のディプロマ・ポリシーの対応：令和 2 年度の評価の集計結果一覧、資料 12. カリキュラム委員会細則、第 4 条の二）。

科目間の関連性及びカリキュラムの構造について、2019年に科目のナンバリングを実施し、順序性を検討しました。これらはカリキュラム・ツリーにより示され、教員間で共有されています（資料 45. 岐阜大学医学部看護学科ホームページ（<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/education.html>）、教育課程、カリキュラムデザイン）。2022年度入学生より適用される新カリキュラムに対応したカリキュラム・ツリーに改正しています。

例年、前学期と後学期の授業終了後に、全科目を対象とした学生による授業評価（資料 7. 授業評価・リフレクションペーパー担当年間活動の流れ（FD委員会））を実施しています。科目責任教員ならびに科目担当教員はその集計結果を確認し、各自あるいは各看護学分野教員間で課題に対する改善策を明確にし、次年度の授業に反映させ教育課程の改善を継続的に実施しています。

この継続的な教育課程の改善体制として、各科目責任者は、学生による授業評価の分析結果に基づいてリフレクションペーパーを作成し、具体的な課題に対する改善策を見出し、また、その改善策のアウトカムも次年度の授業後に評価することとしています。このリフレクションペーパーは、当学科ならびに岐阜大学教員がホームページ上で共有できるため、他学部や看護学科内の情報を得ることで、当学科の教育に反映できる体制があります（資料 41. 教員によるリフレクションペーパーの集計結果-2021年前学期-（FD委員会））。さらに、学生へのフィードバックについては、日々の講義のコメントや評価、質問については、次の講義、web上で、フィードバックしています（資料 50. AIMS を用いた講義でのフィードバック）。

授業内容や教育方法等の教育内容全般に対して学生による満足度評価として、毎年 2 月頃、卒業をひかえた 4 年生を対象に自己点検・評価アンケート調査を実施し（資料 75. 岐阜大学医学部看護学科自己点検・評価アンケート調査）、4 年間全体としての教育内容や方法、設備、学生生活等についての意見を聴取しています。また、この集計結果は教務厚生委員会及び教員会議により全教員に共有され（資料 76. 2021 年度看護学科自己点検・評価アンケート調査結果）、各委員会等により学習環境の改善が図られています。

2019 年度末にカリキュラム委員会は、卒業時ディプロマ・ポリシー達成度評価を 4 年生に実施してきまし

た。また 2020 年度から 1 年生に対しても同様に、ディプロマ・ポリシー評価を開始しました。これらの結果はカリキュラム委員会で検討し、教員会議で全体討議したものを資料化しています(資料 77. (2019, 2020, 2021 年度)の卒業時ディプロマ・ポリシーの達成度調査)。

学生による授業評価と、教員のリフレクションペーパー作成の他、教員間のピアな評価及び他科目の授業の方法を取り入れるために、FD 委員会が企画して、他学部の教員の授業を対面あるいは web により聴講できる仕組みも作っています(資料 78. FD 委員会企画「公開授業」アンケート (FD 委員会))。臨地実習においては、各看護学分野が指導者会議や報告会等を適宜開催し、意見交換や教育上の課題検討等を行い、評価により明確になった課題解決を図っています(資料 7. 授業評価・リフレクションペーパー担当年間活動の流れ (FD 委員会))。

課題や改善の取り組み状況

2019 年度開始の前カリキュラムでは、カリキュラム委員会を中心に文科省等の高等教育政策や学協会の動向に沿っているか組織的に点検し、2019 年カリキュラムを整備しました。2019 年カリキュラムについても、カリキュラム委員会を中心に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を踏まえ、文科省、厚労省の報告書より出された卒業時の到達目標と現行カリキュラムの教育内容の点検を行いました。また、社会の状況の変化を踏まえ、高等教育政策や学協会の動向を確認し、当学科のディプロマ・ポリシーを変更しました。新たなディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを変更し、2022 年度入学生に適用される新カリキュラムを申請しました(資料 79. 各科目のディプロマ・ポリシーの対応：令和 2 年度の評価の集計結果一覧)。今後は、カリキュラム委員会で計画的に、定期的なカリキュラムの見直しを遂行していくことが必要と考えています。

評価項目：3-2. 卒業状況からの評価と改善

現状

看護学科では、学科事務部門（学務係）と連携し、入学年次別の卒業率、留年、休学、退学者数などのデータ収集、分析を行っており、国家試験合格率と就職先について開示しています。過去5年の平均卒業率は95%です（資料 80. 入学年次別の卒業率、留年、休学、退学者数、資料 37. 基礎データ 13、14、15）。留年者数および休学者数について、教務厚生委員会で把握し、助言教員等による面接を適宜実施し、継続的に学生支援を実施しています。

学習支援に必要な体制として、助言教員制度を設け、1～3年次は初年次セミナー（1年次必修全学共通科目）の担当教員、4年次は卒業研究の担当教員が修学や、進路、生活上の問題などの相談に乗り、学習継続の支援を行っています。身体的・精神的問題を抱えている学生には面談の実施、経済的問題がある学生には奨学金制度の照会や、アルバイトと学業の両立について助言しています。また、学生が抱える様々な健康問題に対しては、保健管理センターと協働し、看護学科長、教務厚生委員長、助言教員等がサポートしています。学生が休学・復学・退学を希望した時は、学生と面談し、必要な手続きや休学中の学習・生活面の指導を行い、教務厚生委員長を介して学科で把握しています。教務厚生委員会では、学習上の課題がある学生、特に実習状況を報告し、全教員が学生の指導を継続的に行えるよう情報共有しています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p27、p32、資料 47. 岐阜大学医学部看護学科における教育業務・助言教員の役割、p5）。大学全体の学生支援体制として、「キャンパスライフヘルパー」や「ハラスメント相談員」を設置し、学生生活上の様々な悩み（学習・経済・生活環境に関わる問題等）に対する相談窓口を設けて、調査、対応し、サポートしています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p32、資料 81. 岐阜大学ホームページ（https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/information/consult.html）、困ったときの相談窓口）。

各科目責任者はシラバスに講義や実習の到達すべき目標、達成度評価の観点、成績評価の方法を明示し、その到達度状況により成績評価を行います。また、本学科の進級判定は1年後学期末（2年への進級）、3年前学期末（3年後学期への進級）になされ（資料 20. 学生生活と履修の手引き、p21）、卒業判定は4年次1月に実施されます。各学生の履修状況を確認しながら単位認定を確認し、教務厚生委員会、教員会議等を経て、進級、卒業認定・学位授与を厳格に行っています（資料 82. 教務厚生委員会議事録（卒業判定に関わる部分）、資料 96. 教務厚生委員会議事録（進級判定に関わる部分））。

なお、4年次学生を対象に、現行カリキュラムに基づく5つのディプロマ・ポリシーの達成度を調査した結果、平均3.5（資料 77. （2019, 2020, 2021年度）の卒業時ディプロマ・ポリシーの達成度調査、資料 43. ディプロマ・ポリシー達成度調査票）であり、概ねディプロマ・ポリシーは達成できていると言えます。

岐阜大学では、幅広い分野において育成すべき基盤的能力として「考える力」「伝える力」「進める力」を挙げており、以下のような人物の入学を期待しています（資料 83. 岐阜大学ホームページ（https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/g_education/base.html）、岐阜大学が育成する基盤的能力）。

さらに、看護学科ではこの基盤的能力をもとに、学科独自のディプロマ・ポリシーとして以下の5つを挙げ、これらの素養を備えた人材の育成を目指しています（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）。

1. 人の尊厳と、生命を尊重する姿勢に基づいた倫理的配慮ができる能力
2. 人間・環境・健康・看護に興味・関心を持ち、多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴を理解する能力
3. 看護を必要としている個人・家族・地域社会に対して、対象に応じた看護を実践できる能力
4. 変化する保健・医療・福祉システムの中で、チーム医療を担う一員として、他職種の役割を理解し、協働的關係を築き調整する能力
5. 看護専門職として、将来的な展望を持ち、自らを振り返りながら研鑽する態度や、自律的に行動する能力

過去5年の看護師国家試験合格率は97.4～100（平均99.2）%、保健師国家試験と助産師国家試験の合格率は100%であることから（資料37. 基礎データ15、国家試験合格率）、ディプロマ・ポリシーに照らし看護職の免許取得状況は適切であると言えます（資料20. 学生生活と履修の手引き2021、p3）。また、国家試験不合格者には、4年次での卒業研究担当教員が卒業後もサポート体制を維持しており、学内で実施する国家試験模擬試験にも参加できるように配慮しています。

また、本学科は教育理念を以下のように示しています（資料20. 学生生活と履修の手引き2021、p3）。

近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、多様な社会的要請に応えるため、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する知識や技術を習得・発展させる能力や、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たせる高い資質を持つ看護職を育成する。

過去5年の卒業生の就職率は95%、進学率は4%でした。進学先は、看護系大学院2%、助産師や保健師養成機関2%です。就職者の職種は、看護師78%、保健師（公務員）8%、助産師4%、養護教諭5%でした（資料37. 基礎データ16、17）。国家試験にはほぼ100%が合格し、そのほとんどが看護職として就職または進学していることから、本学科の教育理念に合致しているといえます。

課題や改善の取り組み状況

休学者、留年者は毎年若干名おり、保護者も含めた継続的な支援が今後も課題です。

評価項目：3－3．雇用者・卒業生からの評価と改善

現状

2021年度に岐阜大学医学部附属病院に就職した卒業生を対象に、『卒業後の岐阜大学医学部看護学科教育プログラムへの満足度調査』を実施しました（資料 84. 看護部へ依頼したアンケート（2021年7月28日 将来計画委員会 資料））。分析結果を、看護学科教員及び岐阜大学医学部附属病院看護部に報告し、今後の教育プログラムのブラッシュアップに役立てる予定です（資料 84. 看護部へ依頼したアンケート（2021年7月28日 将来計画委員会 資料））。さらに、看護学科4年生に対して卒業直前に実施している『岐阜大学医学部看護学科自己点検・評価アンケート調査』（資料 75. 看護学科自己点検・評価アンケート調査）の調査結果との比較検討も行う予定です。

当学科の社会貢献部会では、卒業生相談窓口を開設しており、卒業生は卒業後も本学科教員との連絡を取りやすい体制となっています（資料 85. 看護学科ホームページ（<https://www.med.gifu-u.ac.jp/nur/almuni.html>）、卒業生の方へ）。2018年度には1期生（2004年3月卒業）から14期生（2017年3月卒業）を対象に「岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および要望に関する調査」を実施し、冊子に集約しました（資料 86. 2018年度岐阜大学医学部看護学科活動報告 社会貢献部会）。この調査は今後も断続的に実施予定です。卒業後の動向調査から得られた情報は、当学科全教員間で共有されています。

また、出身高校・入学時成績・入学後成績・就職先等の情報をIR分析しており（資料 87. 2018年度第2回看護学科入学試験委員会報告）、この分析結果によって入学者や卒業生の特徴を明確にできるため、入試のほか、受験生への広報活動や就職活動指導等に活用しています。

課題や改善の取り組み状況

卒業生の雇用先を調査対象とした、看護学科の教育プログラムならびに卒業生に対する評価システムは現時点では存在しませんが、現在、評価方法や質問項目等について検討中です。雇用先を対象とした看護学科の教育プログラムと卒業生評価は、雇用先が本学に期待する看護職の資質や能力の明確化を可能とするため、教育課程の改善に有用であると考えます。

今年度を皮切りに、大きな雇用先である岐阜大学医学部附属病院の協力を得て卒業生へのアンケート調査に着手しましたが、十分な情報は入手できていない状況です。今後、医学部附属病院以外にも対象施設を拡大し、より多くの卒業生から、在学中の本学の教育について後ろ向き調査を実施する方向です。

評価基準 4. 入学者選抜

看護学学士課程の教育理念・教育目標、ディプロマ・ポリシーに賛同して学修を希望する入学生を獲得するために、アドミッション・ポリシーを明示し、それに合った入学者選抜を行っていること。

評価項目：4-1. 看護学学士課程のアドミッション・ポリシー

現状

本学科では、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）について、8項目を挙げています（資料 19. 一般選抜学生募集要項、p5、資料 19. 特別選抜学生募集要項、p2、求める学生像）。また、本学科のディプロマ・ポリシー5項目（資料 20. 学生生活と履修の手引き 2021、p3）は、アドミッション・ポリシー8項目と照らし合わせると、看護学を学ぶに相応しい基礎的素養がある者を受け入れ、その基礎的素養を発展させ、看護職に必須の能力（専門知識と技術と態度）を習得した者を輩出することを目指しています。よって、これらアドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーは整合していると言えます（資料 88. アドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーの対応表）。

入学者選抜は、一般選抜（前期日程・後期日程）の他に、特別選抜として学校推薦型選抜 I、社会人選抜を実施し、それぞれについて、小論文、面接、調査書（推薦のみ）を組み合わせで評価しています。各試験は、岐阜大学の規定する学力 3 要素等のそれぞれについて評価し、十分な知識・技能や思考力・判断力および表現力等を有する学生を選抜する方針を持ち（資料 19. 一般選抜学生募集要項、p5、資料 19. 特別選抜学生募集要項、p2）、選抜試験においてもアドミッション・ポリシーを基準に作問等を行っています（資料 89. 入試作問資料：出題のねらい）。このような入試体制によって、学士課程においては、アドミッション・ポリシーに基づいた学生の選抜が可能となります。

当学科のアドミッション・ポリシーが、学生や高等学校教諭および保護者などに十分理解されることは、学生の適性の評価や進路選択および入学後の人材育成等に重要です。学生募集要項、ホームページ上でのアドミッション・ポリシーの提示に加えて、オープンキャンパス等で受験生とその保護者からの相談を受ける際には、アドミッション・ポリシーが理解されているかを意識しています。また、当学科に要望があれば高校に出向き、看護系の進学希望者に、当学科の看護学教育の内容やアドミッション・ポリシーの説明も行なっています（資料 90. 広報・情報処理委員会、看護学科紹介 ppt）。また、「高校への訪問説明」や「オープンキャンパス」実施時は、高校の進路指導担当者、高校生と保護者へのアンケート調査から、疑問点や課題を明確にし、これらの実施方法や内容を更新しています（資料 91. 広報・情報処理委員会、アンケート用紙、分析結果）。

オープンキャンパスや高校への訪問説明時での対応や、アンケートの分析結果から、現段階でアドミッション・ポリシーについて、理解が困難等の意見はないことから、当学科のアドミッション・ポリシーは学生、高校教諭および保護者から理解が得られていると考えています。また、例年、岐阜県高等学校長代表者との懇談会の中で、看護学科への質問を受ける機会を設けています（資料 92. 岐阜県高等学校長代表者会議資料）。

課題や改善の取り組み状況

高校教育での情報通信技術（ICT）教育の必修化など、高校生を取り巻く環境は変化しています。現代の高校生の特徴を理解し、本学科での教育に活用するために、研修会（資料 93. 現在の高等学校の教育（授業、新カリキュラム、入試準備の実態、2021 年 12 月 20 日））や高校との会議（資料 94. 学校運営協議会 会議実施報告書）等の機会を活用し、情報収集する方針です。

評価項目：4－2. 看護学学士課程の入学試験とその改善

現状

看護学科のアドミッション・ポリシー（以下、AP）（資料 19. 一般選抜学生募集要項、p5、資料 19. 特別選抜学生募集要項、p2）は、2020 度に見直しを行い、2021 年度入学者選抜から、学力の 3 要素である〈知識・技能〉〈思考力・判断力・表現力〉〈主体性・多様性・協働性〉に基づいて、2 項目を追加しました。

〈知識・技能〉は「AP 看護学の修得に必要なかつ十分な基礎的知識・技能及び教養を持っている人」、〈思考力・判断力〉は「AP 身につけている知識・教養をもとに多角的に物事をとらえ、論理的に思考し、判断ができる能力を持っている人」、「AP 高い倫理観に支えられ、自分を律する能力を持っている人」、〈表現力〉は「AP 他者の意見やきもちを理解できるように努め、自己の考えを的確に表現し、伝える能力を持っている人」、〈主体性・多様性・協働性〉は「AP 看護をはじめ様々な学問分野に興味・関心を持ち、真実を知ろうという科学的探究心に富み、自己学習意欲が旺盛である人」「AP 他者の意見を傾聴し、相手を尊重しながら互いに協力して学ぶことができる人」「AP 自己・周囲の変化に応じて対応できる能力を持っている人」、〈その他〉として「AP 自己の心身の健康に留意して行動できる力を持っている人」をあげています。

一般選抜（前期日程）では、看護職となるために必要な総合的基礎学力を評価するために、大学入学共通テストと個別学力検査として国語又は数学、英語を実施します。一般選抜（後期日程）では、看護職となるために必要な総合的基礎学力に加え、目的意識、社会への関心、表現力を評価するために、大学入学共通テストと個別学力検査として小論文、面接を実施します（資料 19. 一般選抜学生募集要項 p20、p39）。学校推薦型選抜 I では、大学入学共通テストを課さず、看護職になるために必要な基礎学力の程度と、看護への強い関心・意欲・探究心など看護職としての適性を調査書、小論文、面接により総合的に判断します。社会人選抜では、大学入学共通テストを課さず、社会人経験者を対象に、人々の健康の向上に寄与する看護実践能力と幅広い教養と豊かな人間性を身につけようとすることに強い意欲を有する者を求め、小論文、面接による評価をしています（資料 19. 特別選抜学生募集要項 p9、p18）。いずれの入学者選抜試験においても、アドミッション・ポリシーに沿って実施しています。

従来、入学者が、学力の 3 要素とアドミッション・ポリシーに即した基礎的能力・適性を有しているか、データを基にした検証は実施していませんでした。2021 年度入学生から、入学時の基礎的能力・適性について検証を開始しました。当学科では教員が助言教員制度を取り入れており、入学時から数名の学生を担当します。1 年生前学期の全学共通教育科目である初年次セミナーは、各教員が学生の助言教員を担当します。その学生に対して、初年次セミナー終了時に各教員に調査を実施しました（資料 95. R3 入学者のアドミッション・ポリシーにあげる能力・適性の評価結果）。その結果、アドミッション・ポリシーに対する基礎的能力・適性は、すべての項目で 55%～70%が「普通」であり、「やや優れている」学生は 20%から 33%、優れている学生は 4%～9%という結果でした（資料 95. R3 入学者のアドミッション・ポリシーにあげる能力・適性の評価結果）。2021 年度入学生については、アドミッション・ポリシーに沿った基礎的能力・適性を有した学生を迎えることができましたと言えます。

当学科では、2018 年度より看護学科入試委員会に大学入学者選抜改革 WG を編成し、岐阜大学 IR 室の IR（Institutional Research）分析によるデータをもとに、入学者選抜試験方法について検討を進めてきました。2017 年度末、学校推薦型選抜 I の学内 GPA は、一般入試よりも高い傾向であり、さらに専門科目の講義・演習・実習においても、中央値で学校推薦型選抜 I が高いことが明らかになりました。また、一般選抜（後期日

程)では、実習 GPA の中央値が少し高めであることがわかりました。さらに、一般選抜(前期日程)による入学生は、GPA にばらつきが大きいことが判明しました(資料 97. 2018 年 6 月 4 日第 2 回看護学科入試委員会報告)。この結果を受け、より学力の高い学生の確保のため、2020 年度入学試験より学校推薦型選抜 I の入学定員数を 10 人から 15 人に、一般選抜(前期日程)の入学定員数を 47 人から 42 人へ変更しました(資料 98. 2019 年第 3 回看護学科・第 3 回看護学専攻教員会議記録)。

長年続いてきた大学入試センター試験が、2021 年度から大学入学共通テストとなりました。大学入学共通テストへの移行が決定してから、岐阜大学入学試験委員会での検討事項を各学部・学科に持ち帰り、2021 年度大学入学者選抜実施について看護学科入試委員会で検討を続け、科目を決定しました(資料 99. 第 4 回看護学科入学試験委員会報告 2018. 10. 31&第 6 回入学試験専門委員会議事要旨 2018. 10. 31)。

当学科では 3 年次編入学制度を実施してきましたが、編入学試験の基準に到達した合格者がいない状況が続いていました。また、岐阜県下に看護系大学が急速に設置されたことから、当学科の社会における編入学の役割は終えたと考え、2019 年度 3 年次編入学募集を最後に、翌年から募集を停止しました(資料 100. 第 1 回看護学科入学試験委員会報告 2018. 4. 25)。

入学者選抜試験は、岐阜大学教育推進・学生支援機構アドミッション・センター全学入学試験委員会細則(資料 101. 岐阜大学教育推進・学生支援機構アドミッション・センター全学入学試験委員会細則)に基づき設置されている全学入学試験委員会で、入学者選抜に関すること、大学入試センターが実施する試験に関すること、入学者選抜の方法及び制度に関すること、大学院入試に関することを審議する体制になっています。毎年度、文部科学省の大学入学者選抜実施要領、国立大学の入学者選抜についての実施要領に従い、岐阜大学の入学者選抜試験の実施について審議されています。

当学科では、各入試種別により部会を編成し、各部会長をもって看護学科入学試験委員会の委員としています。全学入学試験委員会での審議事項や決定事項を踏まえ、実施前の審議、要項の確認、実施後の振り返りを継続的に実施しています(資料 102. 医学部看護学科入学試験委員会細則)。採点および合否判定の公平性を担保するために、受験者の氏名は伏せた状態で、複数の採点者により採点が行われています。また、受験番号、所属高等学校名及び併願大学を表示しないよう加工した合否判定資料にて、合否判定を実施しています。

体調不良者には別室で受験を認めるなど、受験者に配慮した体制をとっています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020 年度以降の入学者選抜においては、大学入学者選抜協議会による「大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に準じて、入学者選抜試験が受験生に安全で公平に実施できるよう取り組みました。2021 年度からの学校推薦型選抜 I では、2021 年度大学入学者選抜実施要項(6/19 付文部科学省)に記載の「入学志願者の成果獲得に向けた努力のプロセス等について記載を求めることなど」を鑑み、「志願者本人が記載する資料」として、志願者が提出する「調査書添付書類」に加え、別紙「活動報告書」(大学入学者選抜実施要項に記載の「別紙様式 2」を参考に作成)(資料 103. 活動報告書)を設け、在学中に取り組んできた活動について具体的な記載を求めました。それにより、新型コロナウイルス感染症の影響で部活動の大会等が中止となった入学志願者に対して、入学者選抜試験に公平さが担保できるよう努めました(資料 104. 2020 年度第 5 回看護学科入学試験委員会報告)。

課題や改善の取り組み状況

アドミッション・ポリシーに対する基礎的能力・適性調査でやや支援が必要、支援が必要という学生が、<

知識・技能>で1%、<思考・判断力>で4%、<主体性・多様性・協働性>で5%、<表現力>では11%という結果でした(資料95. R3 入学者のアドミッション・ポリシーにあげる能力・適性の評価結果)。教務厚生委員会を通して、助言教員に情報が集約するような体制を活かし、支援が必要な学生の見守りを継続していく必要があると考えます。また、今後は、大学入学共通テストが変更となった2021年度入学者選抜試験以降の入学生の実績等について、IR (Institutional Research) 分析に組み込んで、入学者選抜試験の種類と学内成績 GPA (Grade Point Average) との関連を分析し、入学者選抜方法を検討していく予定です。